

## カボチャ・モザイク・ウイルスによるネット型メロンの 急性萎ちょうに関する2,3の知見

木 曾 皓・野 村 良 邦

(野菜試験場 久留米支場)

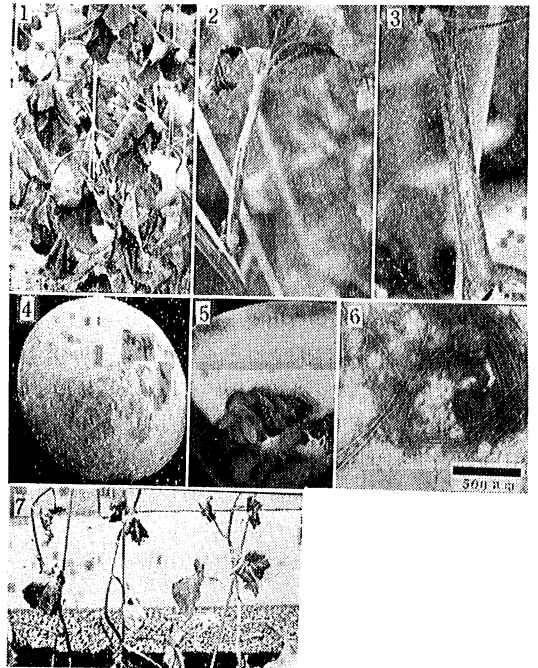
福岡県久留米市御井町，熊本県八代市，鹿児島県垂中市で，施設栽培のネット型メロンが，メロンえそ斑点病やつる枯病に酷似した症状を示して果実肥大期から収穫期に地上部が萎ちょうして，枯死する被害が発生した。被害株から，WMV が分離されて症状が再現され，普通の WMV とは系統が異なるので知り得た2, 3の点について報告する。

### 症 状

茎では摘葉，摘芽，摘芯を行った部分から条斑えそがおこり，そのえそ症状はかなり長く茎に沿って続き茎えそに進展する。また新芽や側芽のような生長点部分では頂点えそを起こし，生長点部分から萎ちょう症状が現れる。また株元のはかま症状も発生する。これらの症状はつる枯病による茎の病徴と酷似している。しかし，病斑が古くなっても，つる枯病特有の柄子殻の形成がみられないので区別がつく。葉の症状は，メロンえそ斑点病の葉縁に現れる大型病斑（樹枝状病斑）に似て葉身部がくさび型に黄化褐変し，葉脈えそ，葉柄えそを起こして茎に達し，これにも条斑えそを発生する。この頃になると草勢は弱り，生育も抑制され，全般的に下葉から黄化現象を起こして株全体が萎ちょうし，ついには枯死する。メロンえそ斑点病の葉に現れる大型病斑を樹枝状型に形容しているが，本病の葉に現れる病徴，特に成葉に現れたものは，葉脈えそによる樹枝状型を示して萎ちょうするので初期判別が困難である。ノーネット型メロンでは果皮に褐色えそを発生する。

### 病原体の分離と病原性の確認

被害株の病葉を0.1Mりん酸緩衝液（pH7.0）で磨砕しアールズ型メロンに汁液接種すると，容易に萎ちょう症状の再現ができた。またアブラムシ伝播も行われた。ウリ科，マメ科，アカザ科などの判別植物検定，及び電子顕微鏡観察などから，WMV によるウイルス病と診断した。本ウイルスは，キュウリ，スイカ，カボチャに対し



- 写真1 収穫直前に萎ちょうした症状  
 写真2 葉に現れた樹枝状病斑，葉脈えそ及び葉柄えそ  
 写真3 茎に現れた茎えそ  
 写真4 果実（シラユキメロン）に現れた褐色えそ  
 写真5 果肉部のえそ症状  
 写真6 電子顕微鏡で確認されたWMV粒子(dip法)  
 写真7 病徴の再現試験で現れた萎ちょう症状

ては WMV 特有のモザイク症状だけにとどまり，萎ちょうは起こさない。病徴から，本病は WMV-えそ系統（岸・1961）によるものと思われる。なお，本ウイルスは，夏秋キュウリ，露地メロン，及びスイカなどに発生したウイルス症状株からも分離されるので，今後ウリ類の栽培地帯では十分な注意が必要である。